

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習誌

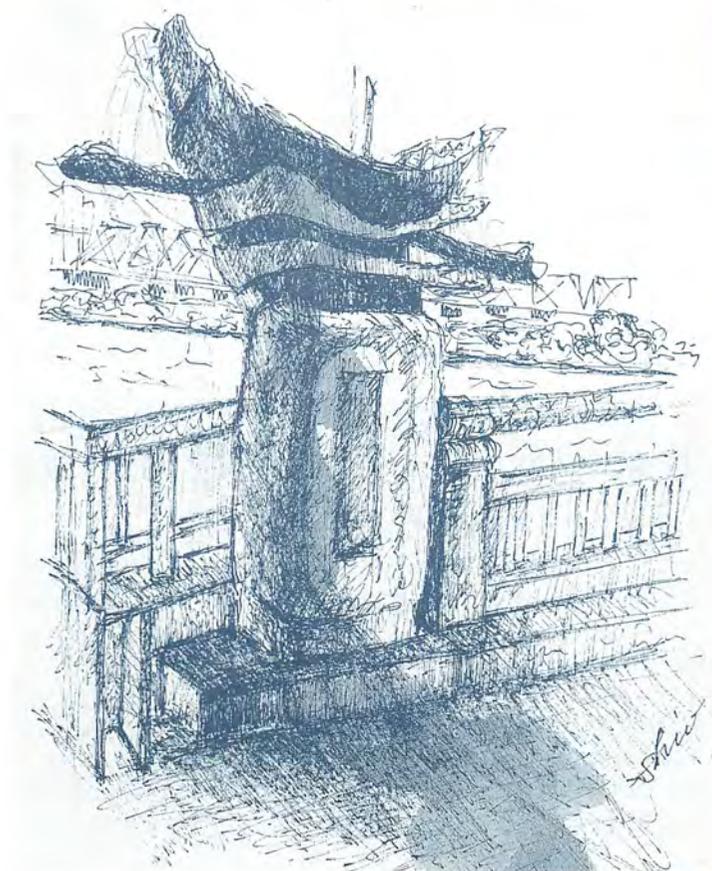
Stage

ステージ・アップ

up

1992年
新春

号【隔月発行】無料



六郷橋



いまを話す

プロデューサーの伊藤準子さん
オペラに魅せられ46歳で転進

1992 **新春** 号

もくじ



連載「いまを話す」コンサートプロデューサー 伊藤準子さん
オペラに魅せられ46歳で転進

はりきってます ■グループ紹介

本好きの子育てに自宅開放／うさぎ文庫

心の中のこころ ●生涯の一冊 幸区・相澤一男さん
宮前区・橋本佐智子さん

学習・文化情報 ■講座・ステージ・催し・会員募集

心のセミナーで小森陽一・成城大助教授

漱石の「三四郎」からなにを学ぶか

多摩川と語るで岡本かの子研究家の古屋照子さん

「多摩川は、かの子文学の情感の泉」

●「芸術のまち構想」シンポジウム

芸術家、市民主導で 記念公演で
團伊玖磨さん

●表紙絵——田島志織



さらに事業の充実、発展に努力～新春を迎えて

新春のお喜びを申し上げます。

当事業団は市民のみなさまの生涯にわたる学習活動を支援するために設立され、多様な学習機会や場所の提供、学習情報の収集・提供、学習相談、調査研究などの事業を進めてまいりました。事業開始以来一年を経ましたが、おかげさまで事業も順調に進んでおります。これも、ひとえにみなさま方の温いご理解、ご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

さて、昨年はずいぶん変動の年でありました。普賢岳の爆発、バブルの崩壊による経済混乱、ソ連の変事をはじめとする国際情勢の激変など、私たちのこれまでの知識、経験では対処しきれない事が多発し、改めて、さらなる学習の必要を痛感させられたところです。

このような時にあたり当事業団では職員一同、みなさま方の自由でかつ自主的な学習のお役にたてるよう、更に一層事業の充実、発展に努めてまいりますので、当事業団の一層のご活用をいただければ幸いです。

(財) 川崎市生涯学習振興事業団
 副理事長 渡部久喜

懐装著 正法眼蔵随問記

岩波書店

人は練磨で仁となる

川崎市幸区大宮町 会社社長 相澤一男さん

私をはじめ『正法眼蔵随問記』に接したのは、それは紙質の悪い岩波文庫旧版の一冊でしたが、戦後数年たった頃でした。なにぶん戦後の混乱期で、学生運動が燃え盛っていた頃の学生でしたから、道元の言

葉がすぐに理解できたわけではありませぬ。迂遠な世界だ、というのがむしろ正直な感想でした。しかし、それから年月が過ぎ、さまざまな機縁から——とりわけ身近な親しい人々の死に立ち会うことがたび重なるにつれ、中世の祖師方の言葉に少しづつ眼が開かれ、道元や懐装の名があらためて鮮明に意識されるようになりました。

道元は、中国から帰国して六年後、

天福元年(二三三)、ようやく機が熟して正法宣揚のための道場を築くべく、京都深草に興聖宝林寺を開きました。懐装がその門に投じたのは翌年の冬のこと、後に『随問記』としてまとめられる寛書の筆録をはじめたのも、この直後だろうといわれています。筆録は嘉禎四年(三三六)の冬まで続きました。従って、四年間にわたる『随問記』の記述は、道元教団最初期の記録でもあり、草創期の教団の緊張感が自ら読む者に伝わってくるように思われます。

それが修業者の面目であるにせよ、一面成立早々の教団の貧しさを映してもいることでしよう。そのなかで、徹底した修業が求められ、天童山如浄禅師会下のすさまじい修業ぶりが語られもしました。「玉は琢磨によりて器となる。人は練磨によりて仁となる。いづれの玉か初より光ある、誰人か初心より利なる。必ずみがくべし、すべからく練るべし、自ら卑下して学道をゆるくすることなかれ」。当時道元は三十五歳、自信と気迫にみちた説示は、懐装はじめ弟子達を大いに奮起させたに違いないし、後世の私達をも鞭打ってやみませぬ。



心にいる

宇野千代著 天風先生座談 廣濟堂文庫 積極的生き方を教わる

川崎市宮前区宮崎 主婦 橋本佐智子さん

『明治九年、華族に生れながら軍事探偵となり満州へ、「人斬り天風」と恐れられる。その後、死病を治すために欧米からインドへ。その間、コロンビア大医学博士、日本人初のヨ方直伝者となる。帰国後、銀行頭取会社重役となるが、突如一切の地位を投げ打ち、大道説法に転じる』

し、宇野千代さんが構成した本です。人は一心不乱に突っ走っている時と、自分の来し方をふと振り返るいわば人生のアイドリングにも似た、ちよつとした瞬間があります。生き方に迷いを生じた時や、自分の行動は正しいと思うのに周囲に受け入れられにくい時等、そのような場合に心の支えと、やる気を起こさせる内容です。「人は何の為に生まれてきた

のか」という命の意味をも教えてくれた本でした。「寝ている時というものは休息状態なのだから、いいことを考える様に。嘘でもよいから俺は優れた人間だ、思いやりのある人間だ、私はハラを立てない人間だ、私はヤキモチを焼かない人間だ、と思えばよい」「消極的な意思表示の言葉を使わなように。事情がどうあろうとも、

我々の考え方が少しでも消極的だったら、ただちに肉体生命に驚くべきマイナス変化が表われてくる。この変化は血液とリンパの機能が破壊されてしまうというのです。すなわち、気の持ち方が如何に大切か、という天風先生のご自身の経験からのナマの声が、この広大な宇宙に「自分は生かされている」ことに対する感謝の念をとて感じさせてくれました。過去をいたずらに振り返るのではなく、これからの道を積極的に明るく開拓していきたいと思えます。



コンサート プロデューサー 伊藤準子さん

いまを話す

Vol.3

インタビューアー 広瀬暁子さん 主婦



四十歳代半ばで、O.Aオペレーターからコンサートプロデューサーに転身、新進オペラ歌手のリサイタルを主催する主婦が川崎市麻生区にいる。伊藤準子さんで「趣味の音楽が高じて」と話す言葉も笑顔も静か。世界的クラシック音楽家の演奏会は、チケットにプレミアが付く過熱ぶり。一方、受賞新人でも発表の機会が少なく埋もれるケースが多い。伊藤さんの「聴いた人を感動させる新進歌手に光を当てたい」との願望が、強靱(じん)な意思と情熱に変わり三年。つねに才能豊かな新人の発掘に動き、リサイタルを次々に成功させた。

オペラに魅了し46歳で転進

新進歌手の発掘に情熱

——初めてお目にかかります。伊藤さんは、新進オペラ歌手を発掘され、その方のコンサートを企画・主催していると聞き、本当に難しいジャンルのお仕事にチャレンジされていると感心して参りました。

伊藤さん ありがとうございます。

——伊藤さんがこの秋(一九九一年)プロデューサーし、東京で開いた新進テノール歌手と中国人留学生琴奏者とのジョイントコンサートは、音楽界で話題になりましたが、ああいう発想はどこから生まれるのでしょうか。

伊藤さん たまたま九一年春、中国人留学生のお琴の演奏会に誘われ、

その素晴らしさに感嘆しました。留学生のお世話をされている事業団の理事長が「物価高で勉強もままならない。ステージに出る機会を与えて欲しい」とあいさつされ、私もお役に立てたらと考えたのです。

——偶然の出会いから新鮮な企画が生まれたわけですね。

伊藤さん はい。その頃ロッテの「ティラミス」のCMソングに起用されたテノールの平田孝二さんのコンサートを企画。学生さん同士の演奏会もいいのではと…(控え目に)。

——話は変わりますが今、ドイツに留学中で活躍中のテノール歌手の錦織健さんは、伊藤さんが八九年秋

に開いたリサイタルがきっかけで一躍注目を集めたそうですね。

伊藤さん いいえ、そんな事はないと思うのですが…。錦織さんとはともちのある方で、ミラノから帰国して半年後、「音楽の友」主催のコンサートがあり「非常に声の良いテノール」と感激しました。その後、知人のピアニストの相原真理さんから「声楽家の伴奏ピアニストとして活躍したい」と相談を受け、二期会で若手の錦織さんに承諾して頂けたらと思ひまして。

——その頃は既に錦織さんは専門家に才能が認められていた訳ですね。

錦織健さんの独唱会 開き脚光浴びる

伊藤さん はい。ですから多分駄目だろうと思いつながら、錦織さんにお話をしたところ、思いがけなく喜んで下さいました。この世界では意外と一人の、リサイタル形式の舞台は少ないのです。このリサイタルに著名な音楽評論家が注目、錦織さんを評価する評論を発表して下さいました。その後、錦織さんは日本クラシック界で受賞し、全国で活躍されました(笑顔で)。

——ところで、いつごろからこのお仕事に入られたのでしょうか。伊藤さん 錦織さんのリサイタル



声楽の勉強は32歳から

が初めてなのです。

——ほー。そうでしたか。

伊藤さん 私、それ以前に僅かですが声楽の勉強をして、友人をゲストに招いてサロンコンサートを二回した経験があります。

——その時、ご自分で企画され歌われたのですか。

伊藤さん ええ、歌っていました。プログラムもワープロで打ち、すべ

て手作りでした。その頃からコンサートをプロデュースすることに興味がありまして(楽しそうに)。

——プロデューサーになる前のお仕事は？

伊藤さん 十二年間専業主婦でしたが、三十二歳で歌を習いはじめて三十五歳になって昔やっていたコンピュータの仕事に就き、二十種類のマシーンをマスターしました。企業

で仕事をしながら、コンサートプロデューサーもして去年、会社を退職致しました。

——コンピュータの方の才能もあったのですか。

伊藤さん いいえ、気が利かないものですから機械に向かうほうが性に合っていたのだと思います。

機械を扱う仕事から才能見出だす職業へ

——大変謙遜していらっしゃいますね。機械を扱う仕事から人間の才能を見出す一番難しい仕事に変わられた？

伊藤さん はい。十年間、機械に向かって仕事をし、人間を相手に仕事をするのはほとんど無かったものですから「そろそろ人を相手にした仕事をしてみたい」との気持ちが芽生えて…。

——分かるような気がします。錦織さんのような魅力のある新人に光を当ててあげたいと思い、新しい仕事に入られたと思うのですが…。

伊藤さん いいえ、そんな大それたことでは無いんですよ、本当に(ちよつと照れる)。ただ、私が三十二歳になって声楽の個人レッスンを受けた先生は当時二十七歳で、合唱団の指揮者で音楽教育への情熱があり、ご自身もバリトン歌手になりました。

伊藤 準子さん

いとう・じゅんこ=札幌西高卒業し、札幌市役所で電子計算機業務に。昭和41年から川崎市在住。児童のための「あすなる文庫」主宰。56年からOAオペレーター。平成元年、コンサートプロデューサーに。家族は夫と成人した2人の息子。自宅は川崎市麻生区岡上1624の57。☎04-988-9436。48歳。

い希望をお持ちでした。しかし、二期会の研究生でもステージに出して貰うためには多額なお金が必要で、お金のない人はこの世界ではやっていけない」と話していました(しみりと)。

——本当に厳しい世界ですね。

伊藤さん 先生は結局、歌手を断念されんが中学教諭になり、三十八歳の若さでがんのため他界されました。先生は一度のリサイクルも開けずに逝去されたのです。有能な方でも、ほとんどがステージに立つ機会のなまま、この世界から去ります。ほんの僅かな方が脚光を浴びる現実を肌で感じていましたので、この仕事は先生の追悼にもなるこの思いがあったのです(悲しい表情)。

恵まれぬ恩師追悼のため

「有能な人を舞台に」



感動させられるお話ですね。商業ベースでクラシックコンサートを開くのは困難な現状ですね。初プロデュースまでのご苦労は大変だったでしょう。

伊藤さん まず、お客様が納得されるだけの素質を備えた人と出演交渉しなければ成功しません。クラシックのお客様は確かな耳をお持ちですので、生半可な考えではやれません。それとチケット捌(さば)きですね。最初の錦織さんのコンサートで、プロデュースは終りにしようと思いい、二千円の安いチケットにして、残りを持ち出しました。百五十人がチケットを買って下さいましたが、かつて私のコンサートに来てくれた

お友達とか会社関係の方が主でした。世界的アーティストが来日するとプレミアの付く騒ぎになりますが、新人のコンサートで一口に百五十人と言いますが、大変ですよ。

伊藤さん いまは、聴衆は新進歌手の将来性を楽しみに足を運んで下さる。安いチケットでは歌手にも失礼と考え直し、また、持ち出しを前提にプロデュースしたのでは長続きしませんから。

この人のコンサートを自分の手で開きファンに聴いて貰おう、との思い入れがなければお仕事、続けられないと思うのです。有能な新人かどうかを、どう見極めるのですか。

伊藤さん 昨秋、日本音楽コンクール声楽部門でバリトンの佐野正一さんの声を初めて聴き、入賞(三位まで)されると思ったのですが、審査結果は入選に止まりました。私、コンクールで新入の方の歌を聴く時、歌唱力にも注意しますが、その方が舞台に立った時、聴衆から支持されるかを真剣に考えます。

歌唱力があるのに、心に響かないリサイタルってありますね。

聴衆酔わせる魅力とは

伊藤さん 新進歌手のリサイタルで最も大切なのは、聴衆が歌を聴いて幸せな気持ちで帰途につけるかです。佐野さんは、そういう歌い手さなんだと感じリサイタルを開き、好評でした(淡々と)。

伊藤さんは、女性の鋭い感性で歌い手さんのプラスアルファを発見され「もう一度、あの新進歌手の声を聴きたい」と聴衆を酔わせるリサイタルを絶えず心掛けていますね。

伊藤さん そうおっしゃって頂き恐れ入ります。プラスアルファも聴衆に支持される大きな要素だと思えます(うなずきながら)。

新人の方が自身が計画するリサイタルと伊藤さん主催のリサイタルとの違いはありますか。

伊藤さん 新人の方は、未知の方



広瀬 暁子さん

ひろせ・あきこ = 東京女子大英米文学科卒。OLを経て30年間、英語家庭教師・塾講師。この間、翻訳専門学校主催のG・D・M英語教授法講座を受講。生涯学習としてパツ八研究会、白石克己先生の読書会などに参加。家族は夫と社会人の一男一女。自宅は川崎市宮前区有馬6の18。54歳。

や専門家に聴いて頂く事が重要なんですね。新人のお友達、知人が聴衆のリサイタルでは広がりがないでしょう。また東京でリサイタルを開くとマネージメント料を含め百万円要るので経済的にも大変ですね。

新年の抱負はございますか。

伊藤さん ホワイトデーにちなみ三月十三日に「あなたに贈るセレナーデ」のタイトルで、おしゃれなコンサートを開きます。月並みですが有能新人のリサイタルを一つでも多く開き、お客様が増えればと願っています(祈るような面持ちで)。

今後のご活躍をお祈りします。

(題字は高橋清・川崎市長)

構成、文責・田中 園

本好きの子育てに自宅を開放

うさぎ文庫

はらきとてまひ

ぐんお紹介

月曜日の午後、川崎市宮前区菅生ケ丘の閑静な住宅街。幼稚園児や小学校低学年のこども達が、かけ足で一戸建ての住宅に入る。塾ではない。その家の六畳間には千二百冊の本が



年間、40冊読むこども達

— 母親は地域づくりにも熱心 —

こども達を待っている。川上悦子さん(42)が自宅を開放、近所のお田さんと開いている「うさぎ文庫」だ。まだ、ひらがなの読めない三歳から小学三年生が主な「お客様」。絵本を手取る幼児の瞳が輝く。月三回の月曜日の午後が「営業日」。二、四十人のこども達が川上さん宅を訪れ、三冊の本を抱えて帰る。

うさぎ文庫は昭和五十八年十二月に開設。当時、新興住宅街で引越して来たばかりの川上さんら六人のお田さんたちが「こども達に何かしてあげたい」と思った。

「児童図書館が近くに無い。本を読んであげると、こどもは生き生きとする」などの話し合いがあり、六軒で「持ち回り図書館」を始めた。

約一年后、鷲ヶ峰西住宅の入居が始まると、一日六十人以上のこどもが本を借りに来た。一人に三冊貸しても二百冊は必要。持ち回り図書館では、本の移動が大変。貸し出し場所の固定に迫られた。

川上さんは一階居間を提供する決断をした。居間にあった家具は総て二階の部屋に移して「新装開店」。家族の協力が光る。

現在、同文庫世話人のお田さんは近くの三、四十歳代の十人。本選びもメンバーの重要な仕事。こども達のリクエストを考慮し、月一回の集

まりで、反省点や今後の活動を話し合う。話題になった児童文学を読み、絶えず新しい情報を吸収、本の選択に気を配る。

こどもの本離れが進むなか、文庫の子は一年間に平均、四十冊を読む。多い子は七、八十冊も。幼い子はお田さんに本を読んでもらうのが楽しみ。親子のコミュニケーションが深まる。

多くのこども達の前で、本の読み聞かせの経験が生きて、PTAや生協活動へ幅を広げた母親もいる。

また文庫の母親は、地域でこども達の輪を広げようと「夏休みの集い」や「クリスマス会」を開き、地域社会づくりに熱心。

メンバーの佐々木恵美子さん(37)は「複雑な大人社会と違い、こどもと接すると気持ちの純粋になれる」。石村喜代子さん(36)も「こどもの喜ぶ顔をみるのが楽しみ」と話す。

代表の川上さんは「九年目に入っただが、近所の皆さんの理解がなければ続けられなかったと思う。これからも肩ひじを張らず、こども達が来る限り自然体で続けていきたい」と笑顔で語る。

川上さん宅は☎044-9771-2572。

(取材・植竹麻千子
写真・松本 成代)

市民手作りの市民企画講座「多摩川と語る」流域の自然、民俗、文学に接して」（全九回）と「心のセミンナー」すてきな人生・隣人・老後を得るために」（全六回）はこのほど、好評のうちに全講座を終了した。両講座に携わった市民スタッフ、受講生、講師各位に厚くお礼を申し上げる。また、受講を希望しながら、抽選に漏れ参加出来なかつた市民のみなさんに心からおわびし今後、当事業団が主催する講座へのご支援をお願いしたい。今号では、岡本かの子研究者、古谷照子さんの「岡本かの子の世界」▽成城大助教授、小森陽一さんの「言葉と行為」く嗽石の作品から」を掲載する。

嗽石の「三四郎」から何を学ぶか

眞実は言葉の背後に

小森陽一
成城大助教授

「言葉と行為」く嗽石の作品から

小森助教授は、夏目漱石が明治四十年、東京帝国大学教授の椅子を断り朝日新聞に入社したが、「当時の帝大教授と新聞社では、地位に天地ほどの開きがあり、現在で考えれば東大教授の椅子を蹴り、ボルノ映画監督になるほど世論を驚かす事件」と活字の世界の時代背景を説明した。日露戦争（明治三十七年二月～同三十八年九月）で、親族の生死を心配した庶民は当時、唯一の情報源・新聞を求め、新聞は飛躍的に部数を伸ばした。

だが、戦争が終わると新聞離れが起き、新聞社は魅力ある紙面作りを迫られ、「朝日」は嗽石を招き連載小説を「目玉」にした。言葉が商品として売れ始め、それまで新聞に小説

を書く作家は軽蔑されたが、嗽石によって文化と認められた。

「大学教授上りの奇妙な小説家」嗽石は、連載小説「虞（ぐ）美人草」でテパートや宝石店とタイアップ。「虞美人草浴衣」「虞美人草指輪」のマルチ商法で大衆の心をつかむ。庶民は書物を音読から黙読に変え

た。本を一人で読む習慣で人間は孤独を知った。小森氏は「嗽石の作品は集団の中で孤立した人間。都市生活の中で、自分の考えが他人に理解されない人間だった」という。

さらに同氏は「黙読によって、言葉の背後にある身振りが奪われ、体が切り離され、書物の言葉が本来の言葉と錯覚する」と分析した。

小説「三四郎」は、熊本から出てきた青年が帝大に入り、新たな生活

を始める。次第に都会生活に慣れ女性と淡い恋をして、やがて失恋をする「都市体験小説」。

三四郎は幼少の頃から本に親しみ、都会生活で初めて活字・黙読の世界から離れる。そして女性数人と出会い、女性が発する言葉を体験するが、その言葉、行動の背後にある意味を理解できず、親密になる機会を失う。嗽石は読者に「三四郎はなぜそうなったか」を問い掛けている。

同氏は従来の三四郎の論争点に触れるため、同小説を朗読した。

「女はしばらく三四郎を眺めた後、聞き兼ねる程の溜め息を微かに漏らした。やがて細い手を濃い眉の上に加えて言った。『われはわが科（とが）を知る。わが罪は常にわが前にある』。聞き取れない位な声であった。

それを三四郎は明らかに聞き取った。三四郎と美禰子はかようにして分かれた。」

美禰子が旧約聖書の中の『われはわが科を……』をどういう意味で使ったのが従来の論争点。聖書の『科』は不倫の意味。美禰子は三四郎の知人と婚約していたが、実業家と結婚を決め、友人に不貞の罪を詫びる言葉、との解釈が主流。

美禰子は三四郎にも甘い期待を抱かせる言葉を掛けており、三四郎に謝罪との解釈もある。

同氏は「従来の解釈は、美禰子が男を裏切ったことが前提。その背景には、美禰子は三四郎より教養があったが『女は男を誘惑するものだ』との発想がある。しかし嗽石は美禰子がなにを考えていたかは一切書いていない」と強調。

「嗽石は『三四郎』を男が女を解釈する物語として設定した。嗽石は三四郎や回りの男達的美禰子についての評価だけを断片的に書き『男に女の姿が本当に分かるのか』と問い掛けたのではないのか」と話し、「こゝう解釈すれば『科（とが）』の意味も逆転する」と述べた。

（担当、飯島睦子）

講座・講演

「自閉症者のより豊かな人生を考
える」人問らしい生き方を求めて」

◆中小企業・婦人会館「2月7日
10～12時。講師は社会福祉法人「楡
の里」理事長・石丸晃子さん。定員
百人。入場無料。川崎市くさぶえ
の家(☎044-888-6692)
主催。会場は武蔵小杉駅より徒歩2
分。

「日常英会話◆宮前老人福祉セン
ター」日常生活・海外旅行に役立つ。
1月24日～2月28日の毎週金曜日13
時半～15時半。全6回。講師は今時
ミルカさん。対象は市内在住の60歳
以上の方。定員25人。受講料無料。
申込みは1月20日までに☎044-
877-9030の同センターへ。
同センターは田園都市線宮崎台駅よ
り徒歩3分。

「激動の世界情勢を学ぶ」これか
らの日本の役割◆幸市民館「世界
の平和を脅かすものが何か、日本が
世界平和の発展にどう貢献すべきか
を考える。2月1日～3月28日の毎
週土曜日14時～16時半。全8回。講
師は小藤田俊明・橋高校教諭ほか。

対象は市内在住の15歳以上の方。
定員30人。受講料無料。申込みは1
月18日10時から☎044-541-
3910の同館へ。同館は幸区役所
前バス停より徒歩2分。

「歴史に学ぶ人生観◆幸図書館」
2月8日(土)14時から。講師は小説家
・山田智彦さん。入場無料。申込み
は1月7日から☎044-541-
3915の同館へ。同館は幸区役所
前バス停より徒歩2分。

「点字入門講座◆川崎授産学園」
点訳活動を通して視力障害者への理
解を深める。1月20日～2月24日の
毎週月曜日10～12時。全6回。対象
は市内在住で点字に関心のある方。
定員25人。受講料千円。点字サーク
ル・木の芽会、視力障害者福祉協会
協力。申込みは☎044-954-
5011の同園へ。同園は千代ヶ丘
バス停より徒歩10分。

「どこへいく日本丸」世界のなか
の日本◆麻生市民館「過労死が社
会問題になり、PKO(国連平和維
持活動)では国際貢献と憲法の関係
で議論があった。日本は本当に豊か
で平和なのかを生活の中から考える。
1月29日～3月18日の毎週水曜日14
～16時。全8回。定員30人。受講料

魅力あるイベントがある

学習・文化情報

無料。申込みは1月16日10時から☎
044-951-1300の同館へ。
同館は新百合ヶ丘駅より徒歩2分。

「宮前ヤングアダルトゼミ◆宮前
市民館」初級英会話でブラッシュア
ップし、国際化に挑戦する。1月22
日から水曜日19時～20時半、全10回
(一部、曜日が違う)。対象は30歳ま
での男女。定員30人。受講料無料。
申込みは1月7日10時から☎044-
888-3911の同館へ。同館

は田園都市線宮前駅より徒歩10分。
「今、夫たちにラブ・コール」家
庭から地域から◆多摩市民館「豊
かさの実感に乏しい日々の暮らし。
家族らしい生活を取り戻すために、
夫の生活を見つめ直し、家族生活の
再建について考える。1月17日～3
月18日の金曜日10～12時。全10回
(一部、曜日が違う)。対象は市内在
住在勤の方。定員30人。受講料無料。
保育は相談。申込みは1月16日まで
に☎044-900-3020の同
館へ。同館は向ヶ丘遊園駅より徒歩
5分。

「成人学校◆多摩市民館」①「多
摩丘陵・春の文化財紀行」は季節を
楽しみ、多摩丘陵の文化財を探索す
る。1月14日～3月13日の金曜日10

～12時(一部、曜日が違う)。講師は
法政大学教授・村上直さん他。定員
40人。教材費は実費。②「英字新聞
で知る社会の動き」NEWS PAP
ERの読み方入門」は英字新聞の
読み方のコツを学習する。1月18日

～3月28日の毎週土曜日10～12時。
講師は明海大学助教授・白野伊津夫
さん。定員35人。教材費は実費。③
「ライフプランセミナー」夫と妻の
人生80年時代」は人生80年時代に
ふさわしい夫婦についてお金・体・
心の面から考える。1月18日～3月
28日の毎週土曜日13時半～15時半。
講師は社会評論家・牧野拓司さん他
定員35人。いずれも対象は市内在住
在勤で15歳以上の方。受講料3千円。
申込みは1月7日、①は10時、②③

は18時半までに直接来館。▽他に随
筆の味わい「徒然草」、日本古代史
再発見、煎茶に親しむ、簡単クッキ
ングの講座有り。詳しくは☎044-
900-3020の同館へ。同館
は向ヶ丘遊園駅より徒歩5分。

「日本の原点を知る」からむしと
麻生◆麻生市民館「麻生」の地名
と縁の深い「からむし」の映画や講
演でその歴史を探る。1月16日(木)
～17時。講師は民族文化映像研究所

学習・文化情報

参加したい催しがある

長・姫田忠義さん。定員は当日先着百人。入場無料。詳しくは☎044-951-1300の同館へ。同館は新百合ヶ丘駅より徒歩2分。

「麻生教育を語るつどい」しあわせってなんなのかな◆川崎市生涯学習振興事業団「家庭や地域の中でこども達にとって何が本当の幸せなのかを考えるパネルディスカッション。1月25日(土)13時半～16時。パネラーは婦人民主新聞記者・青木悦さん、イメージ探検隊・宮里和則さん、落語家・三笑亭夢三四さん。定員3百人。入場無料。申込みは1月16日より☎044-951-1300の麻生市民館(主催)。会場は新百合ヶ丘駅より徒歩2分。

「小・中学生対象の教室◆青少年創作センター」▽陶芸教室は2月23日の毎週日曜日と11日。▽お菓子づくりは3月1～22日の毎週日曜日。▽七宝焼は3月1～22日の毎週日曜日と21日。いずれも9時半～12時。対象は初心者。定員30人。教材費実費負担。申込みは1月19日10時まで直接来館。詳しくは☎044-911-1510の同センター。

「一般対象の教室◆青少年創作センター」▽陶芸教室は2月7日～3月6日の毎週金曜日。▽初春の会席料理教室は2月4日～3月17日の毎

週火曜日(2月11日は除く)。▽七宝焼は2月1～29日の毎週土曜日。いずれも9時半～12時。対象は初心者。定員30人。教材費実費負担。申込みは1月19日10時までに直接来館。詳しくは☎044-911-1510の同センター。同センターは生田駅より徒歩8分。

「パソコン研修◆川崎市産業振興会館」初めてキーボードに触れる人、ワープロを使えるようになりたい人、パソコンを基礎から勉強したい人、今あるパソコンをもっと活用したい人のために講座多数有り。使用機種はNEC、IBM、富士通、東芝。9～21時の間で機器のみの使用も可能。3時間で1万1千円から。社員研修や特別なカリキュラムも組む。詳しくは☎044-548-4119の同館。同館は川崎駅より徒歩2分。



「混声合唱教室、発声教室、社交ダンス入門◆県立高津青少年会館」

▽混声合唱教室は1月9日～3月26日の毎週木曜日。全11回。定員15人。▽発声教室は1月10日～3月27日の毎週金曜日。全11回。定員15人。▽社交ダンス入門は2月5日～3月4日の毎週水曜日。全5回。定員20人。

いずれも18時半～20時半。対象は18～30歳の青年男女。申込みは☎044-844-2101の同館へ。同館は溝ノ口駅より徒歩5分。

「囲碁・将棋大会◆宮前老人福祉センター」2月7日(金)9～15時。対象は市内在住の60歳以上の方。定員各32人。参加無料。申込みは1月末日までに☎044-877-9030の同センターへ。同センターは田園都市線宮崎台駅より徒歩3分。

「体験学習」小正月のマユダンゴ作り◆日本民家園」1月12日(日)15時。定員25人。教材費300円。申込みは12月22日9時から☎044-922-2181の同園へ。同園は向ヶ丘遊園駅より徒歩15分。

「民具づくり教室」草木染め◆日本民家園」ハンカチ、生地を染めてみよう。2月23日(日)10～15時。定員20人。教材費300円。申込みは1月26日9時から☎044-922-2181の同園へ。同園は向ヶ丘遊園駅より徒歩15分。

「体験学習」草ダンゴ作り◆日本民家園」3月8日(日)10～15時。定員25人。教材費300円。申込みは2月23日9時から☎044-922-2181の同園へ。同園は向ヶ丘遊園駅より徒歩15分。

「麻生市民館」「みんなが街づくりの主人公」を合い言葉に、麻生の関心のある事柄をグループごとに実地調査し、マップを制作する。全体説明会2月1日。講習会2月9日。調査期間2月下旬～3月中旬。発表会3月28日。展示3月29日。講師は荻原礼子さん。同館・麻生地域セミナー企画委主催。申込みは1月18日より直接来館。詳しくは☎044-951-1300の同館。同館は新百合ヶ丘駅より徒歩2分。

「貝類展」貝の名前をつけよう◆青少年科学館」相模湾の貝の標本百種ほどを展示。1月10日～2月27日。詳しくは☎044-922-4731の同館。同館は向ヶ丘遊園駅より徒歩15分。

「多摩川の冬鳥◆多摩川」1月26日(日)10～15時。日本野鳥の会会員・田島幹朗さんの指導で、野鳥を観察。JR南武線南多摩駅改札集合。対象は小学4～成人。定員20人。1月7日受付開始。雨天延期。詳しくは☎044-922-4731の青少年科学館(主催)。

「神奈川の鳥 鎌倉探鳥」古都の野鳥を訪ねて◆鎌倉」2月2日(日)10時半、鎌倉駅西口に集合。対象は小学4～成人。定員20人。1月16日受付開始。詳しくは☎044-922-4731の青少年科学館(主催)。

学習・文化情報

やりたいスポーツがある

スポーツ

「市民天体観望会◆青少年科学館」
大型望遠鏡で星を見る。1月11、25日と2月8日は18〜20時。2月22日、3月7日は18時半〜20時半。当日直接来館。雨・曇りの場合中止。小学生以下は保護者同伴。詳しくは☎044-922-4731の同館。

「プラネタリウムの話題◆青少年科学館」1月、宇宙へのあこがれ▽2月、太陽面爆発。火く金曜日は15時、土曜日は13、15時、日曜日は10、12、13時半、15時に開始。大人百円、子供50円。詳しくは☎044-922-4731の同館。

「バドミントン、テニス、バウン」
ドテニス◆市体育館▽バドミントンは基礎から学ぶ。1月16日〜3月19日の毎週木曜日10時〜11時半。講師はバドミントン指導員・齊藤敬子さん。教材費1500円。▽テニスは初めてラケットを握る方でもゲームが出来るように。1月17日〜3月27日の毎週金曜日13時半〜15時。講師は日本プロテニス協会専属コーチ・天野雅仁さん他。教材費2千円。▽バウンドテニスは気軽に楽しめるニュースポーツ。1月17日〜3月27日の毎週金曜日18時半〜20時。講師

は神奈川県バウンドテニス協会理事・小池五男さん他。教材費千円。いずれも対象は市内在住の在学15歳以上の方。定員各40人。受講料3千円。申込みは1月9日でバドミントン、テニスは10時▽バウンドテニスは18時半までに直接来館。詳しくは☎044-2000-3255の同館へ。同館は川崎駅より徒歩15分。バス便有り。

「バドミントン」中級〜◆幸スポーツセンター」1月22日〜3月25日の毎週水曜日夜間。全10回。定員40人。受講料3千円、シャトル代3千円。申込みは1月8日18時半から直接来館。詳しくは☎044-555-3011の同センター。同センターは幸区役所前バス停より徒歩3分。

「親子スポーツ教室◆市体育館」リズムののって体を動かしボール、なわ、マット、とび箱、平均台を使って遊ぶ。1月17日〜3月27日の毎週金曜日。A班・9時半〜10時半。B班・10時45分〜11時45分。いずれも対象は市内在住の3歳児とその親(2人1組)。定員各50組。申込みは1月10日、10時5分前までに直接来館。詳しくは☎044-2000-3255の同館。同館は川崎駅より徒歩15分。バスの便有り。

「コーラルフェストかわさき◆麻生市民館」2月2日(日)13〜16時。川崎市合唱連盟主催。入場料5百円。同館(☎044-951-1300)は新百合ヶ丘駅より徒歩2分。

「デストラップ〜死の罫〜」◆川崎市内3カ所」川崎市民劇場の主催。アイラ・レヴィン作、オフィス・ナイン公演、根津甚八演出。2月15・16日はエポック中原▽18〜20日は宮前市民館▽21・22日は幸市民館。観賞は、同劇場の会員(入会金2千円、月会費1850円)になる。詳しくは☎044-244-7481の川崎事務所へ。

「ファミリーコンサート◆高津市民館」日曜日の午後のひととき、家族みんなで楽しむコンサート。美しいしらべを味わってみませんか? 2月9日(日)13時半開場。演奏はカルテット・グラートス。ヴァイオリンは門依子さんと新福理子さん、ピアノが戸田幸子さん、チェロが浅野真知子さん、ピアノが小枝佳世さん、テ

ステージ

投稿のお願い

次の要領で投稿をお待ちします。
「心このる生涯の一冊」は、感動した本の感想を400字詰め原稿用紙二枚弱(二行二十字で、三十七行以内)にまとめて下さい。欄外に作品(本)名、著者名、ご自分の住所、氏名、年齢、職業、電話番号を書いて下さい。一部削除することがあります。

「会員募集」は会の名称▽代表者の住所、氏名▽おもな活動と場所▽活動状況(例 定例会を毎週金曜日)▽入会呼び掛けメッセージ▽連絡先電話番号、氏名(連絡希望日・曜日・時間も)

「講座・講演」「ステージ」「催し」「シンポジウム」などの「学習・文化情報」は発行月(奇数月)の前月(偶数月)5日までに資料を送って下さい。申し込み方法や参加費の有料・無料の区別、連絡先電話番号・氏名もお願いします。

なお、投稿欄の掲載料は無料です。

会員募集

●ジャズバティッククラブ《麻生区東百合丘1-11-4、中沢健治代表》

ジャズバンドを招いての演奏や話が年3-4回。身近な場所で気軽にジャズを楽しみましょう。不定期、麻生市民館で。連絡先は☎044-966-6640の山中保子宅に夜間お願いします。

●人形劇研究会「ありす」《川崎区藤崎2-18-22、204、川島美貴子代表》

結成2年。人形劇を通してふれあいの輪を広げています。毎月第2・4土曜午前中、幸文化センターで。連絡先は☎044-244-5927の同代表宅へ金曜21時までお願いします。

●辛木彫研究会《幸区小倉610-1-306、茂手木秀次代表》

木彫を中心として彫塑、レリーフ、立体像、仏像、自由像の制作をしています。関心のある方、始めてみたい方はぜひどうぞ。毎月第2木曜日、同代表宅マンション集会所で勉強会。連絡先は☎044-511-1755の同代表宅へ土日を除く18時以降お願いします。

●クロッキー研究会《多摩区西生田5-8-12、後藤博代表》

テッサン、素描、して油絵、水彩、パステル。動きのある人物が自由に描けるようになりま。月2回火曜13時半-15時半、多摩市民館で。連絡先は☎044-966-5715の同代表宅へ。

でも見学に来て下さい。毎週水曜18時半-20時、中原市民館で。連絡先は☎044-833-0304の児玉なみ子宅へ17時-21時にお願いします。

●詩の会さやえんどう《多摩区生田6-25-18、堀口精一郎代表》

詩を書いてみませんか。新鮮な喜びと豊かな感性がよみがえります。月2回水曜10-12時、麻生市民館会議室で。連絡先は☎044-966-1876の同代表宅へ20時迄にお願いします。

●川崎南画研究会《川崎区中島3-18-3、池沢五郎代表》

向学心に燃えながら水墨南画を勉強しています。心と感性を磨いて教養を深め、健康で有意義な人生を過ごすのが目的です。月2回金曜午後、教育文化会館で。連絡先は☎044-233-3898の同代表宅へ。

●仏像の美を学ぶ会《麻生区千代丘5-2-9、白石仁代表》

仏像の美を通して日本文化史を学習しています。毎月第2火曜13時半-15時半、多摩市民館で。会費1回千円。連絡先は☎044-951-0632の同代表宅へ。

●わかば体操《横浜市港北区中川2-9-7-902、福井知子代表》

ストレッチとリズム体操を中心にシエイブアップに励んでいます。いつ

954-1181の同代表宅へ18時以降にお願いします。

●自彊術みゆき《宮前区宮崎3-1-8-604、下里洋子代表》

自彊術は万病克服の体育療法。全身を動かし、心身の調和と健康を保ちます。幸市民館で毎週水曜10時-11時半と毎週金曜10時-11時半の2教室。連絡先は☎044-555-5927の坪田悦子宅へ。

●川崎視聴覚研究会《幸区大宮町1-1-3、506、山田家伸代表》

視聴覚教育についての知識と技術の向上を図り会員の親睦を深めています。ビデオ・写真講習会もやっています。興味のある方はご連絡下さい。月1回火曜夜、高津市民館か教育文化会館で。連絡先は☎044-544-1222の同代表宅へ20時以降にお願いします。

●麻生テッサン研究会《麻生区王禅寺2423-177、本玉沙夜子代表》

裸婦モデルを中心としたテッサン・アクリル画、油彩画、クロッキー・パステル画。個人のレベルに合う指導を受け、楽しく学んでいます。毎週火曜18-21時、麻生文化センター実習室で。入会金2千円、会費は月3千5百円。連絡先は☎044-

●麻生ハングル研究会《麻生区王禅寺663-147、北本巖代表》

ハンガルの学習を通して隣国の生活文化に触れ、理解と交流を深めます。隔週水曜18時半-20時、麻生市民館で。連絡先は☎044-954-3726の同代表宅へ夜間をお願いします。

●麻生版画研究会《麻生区高石4-9-33、木名瀬正博代表》

版画を学ぶことにより、絵画の技術向上を図り、豊かな人生を送りませんか。第1・3火曜18-21時、麻生文化センターで。連絡先は☎044-966-4935の同代表宅へ19-21時にお願います。

●多摩朗読研究会《多摩区菅北浦2-13-14ガ-テンビル多摩203、松本茂子代表》

文芸作品の表現読みを勉強しながら、ふれあいの心を育てます。第1金曜13-16時、多摩市民館第5会議室で。連絡先は☎044-944-7512の同代表宅へ月水金曜にお願いします。

●洋裁研究会《東京都品川区荏原5-15-8、石田美代子代表》

体型にピッタリ合ったスカート、ドレス、フォーマルウェアを楽しみながら作っています。どなたも素晴らしく着やすい洋服が出来上がりますよ。

月3回中原市民館(木曜午前中)と月2回幸市民館(水曜午前中)で。連絡先は☎044-755-6771の新美明子宅へ午後にお願ひします。

●水彩ひまわり会(川崎区四谷上町18-6、荒井敬八代表)水彩画を通して生涯学習を楽しむグループです。近郊でスケッチを行っています。気軽にご参加下さい。月2回第1・3火曜13時~17時、教育文化会館で

(1月のみ第2・4火曜。1~3月は県立青少年会館)。連絡先は☎044-288-4888の同代表宅へ。●中原能研究会(高津区子母口54-81、高橋隆雄代表)能や狂言の鑑賞、素謡練習を通して、会員相互の親睦を図っています。月3回土曜午後、中原市民館で。連絡先は☎044-766-7974の同代表宅へ。

他都市からも注目集める 本誌の配布場所は11カ所

「Stage Up」11月号は、

配布して一週間で品切れの店舗、施設が多く、市民のみなさまにご迷惑をお掛けしました。謹んでおわびします。さて、新春号も民間63カ所、公共施設49カ所のご協力を得て配布しています。本年も市民に愛読される生涯学習情報誌へ編集チーム一同微力を尽くしますのでよろしくご指導をお願いします。

最近、福岡市教委、大阪市教育振興公社などの生涯学習関係者から本誌の取材、編集についての問い合わせが相次いでいます。特に「いまを

話す」は「りきっています」が委託によらず、当事業団職員による手作り記事であることが注目されています。

●小売店 さいか屋川崎店▽ヌマヤ川崎店▽イトーヨーカドー溝口店

●金融機関 川崎信用金庫本店・川崎地下街出張所・小田支店・京町

出張所・大島支店・大師支店・渡田支店・遠藤町支店・加瀬支店・小倉

出張所・鹿島田支店・古市場出張所

・御幸支店・新城支店・住吉支店・武蔵小杉支店・新丸子出張所・平間

支店・宮内支店・向河原支店・榎ヶ谷支店・子母口支店・高津支店・二



担任は人格者だった

幸区塚越2の2、田中忠一さん
高橋市長の「いまを話す」を読み、

子新地出張所・野川支店・有馬支店・向ヶ丘支店・稲田堤支店・宿河原支店・中野島支店・長沢支店・登戸支店・柿生支店・百合丘支店▽横浜銀行川崎支店・大島支店・大師支店・御幸支店・鹿島田支店・武蔵小杉支店・新城支店・元住吉支店・溝口支店・鷺沼支店・川崎北部市場支店・登戸支店・稲田堤支店・生田支店・読売ランド駅前支店・百合丘支店・新百合ヶ丘支店・柿生支店▽住友銀行川崎支店・宮崎台支店・新百合ヶ丘支店▽太陽神戸三井銀行溝口支店・柿生支店

●鉄道 JR川崎駅▽JR登戸駅

●公共施設 教育文化会館▽情報コーナー▽幸市民館▽高津市民館▽中原市民館▽宮前市民館▽多摩市民館▽麻生市民館▽菅生分館▽岡上分

私の小学生時代(1937~1943年)の先生は人格者で神様のような人だったことを思い出した。特に6年生の時の担任は軍国主義教育に反発され、私の心に一生忘れない思い出を残された。上級校に進むにつれ、先生がただの人間化していったような気がしてならない。現在の小・中学校の先生についてはよく知らないが、私の小学生のときの先生のような方が多いことを願っている。

館▽県立川崎図書館▽幸図書館▽高津図書館▽中原図書館▽宮前図書館▽多摩図書館▽麻生図書館▽市民ミュージアム▽日本民家園▽青少年科学館▽市立体育館▽石川記念武道館▽幸スポーツセンター▽麻生スポーツセンター▽青少年の家▽青少年創作センター▽青少年センター▽市役所▽川崎区役所▽幸区役所▽中原区役所▽高津区役所▽宮前区役所▽多摩区役所▽麻生区役所▽福祉パルあさお▽労働会館▽エポックなからはら▽中小企業・婦人会館▽総合自治会館▽市民プラザ▽労働資料室▽消費生活センター▽ヨネッティ▽堤根▽ヨネッティ▽王禅寺▽産業振興会館▽フルーツパーク▽緑化センター▽県立勤労女性会館(この他、老人いこいの家に若干部数置いてあります)。

「芸術のまち構想」シンポジウム

芸術家、市民主導で

記念講演で
團伊玖磨さん

川崎市麻生区の小田急線新百合ヶ丘駅周辺の「芸術のまち構想」が動き出した。一九九一年十一月初旬、同駅前の新百合トゥエンティワン・ホールで、作曲家の團伊玖磨さんが記念講演をした。「芸術がまちを創るシンポジウム」や「芸術フェスティバル」があり、多くの市民が参加した。主催は川崎市、同構想シンポジウム実行委員会（委員長、中島豪一・川崎市新都心街づくり財団理事長）。当事業団など共催。

「産業政策からも必要」

高橋市長がいさつ

シンポジウムで、高橋清・川崎市長は「行政は芸術に理解がない、と不満の声があるが、このシンポジ

ウムを契機に市民、芸術家、行政が知恵を出し合い『芸術のまち構想』実現に向け邁（まい）進したい。川崎市は今日『ハイテクのメッカ』と世界的注目を集めている。知的産業に働く人々に求められるのは創造性



講演する作曲家の團伊玖磨さん

だ。良い環境でなければその情熱は沸かない」と同構想の推進が産業政策、財源確保の上からも大切であることを示唆するあいさつをした。

人的財産は豊富で

実現可能な構想だ

團伊玖磨さんは「芸術家がまちづくりに参加する時代」と題し講演。團さんは、芸術の街造りが現実になるかと言及「麻生区に多くの著名な画家や音楽家、演出家、陶芸家が住み人的財産はある」と述べた。

しかし「これまで芸術家は、ばらばらに行動していた」と芸術家が連帯する事を第一の課題とした。その上で「芸術のまち」は芸術家と市民が一緒にアートを濃密に享受するものでなければならぬ」と、市民と距離をおく事を強く戒めた。

さらに團さんは、ヨーロッパに比べわが国の芸術の種類、流派は驚くほど多く、国民がそれぞれのニーズに応じた芸術と触れ合い「芸術は市民生活の接点」とし、芸術家が街造

りに関与する必然性を説いた。市民が多様な芸術に接するには、「会館の個性化を多くするのは当然」と話し「行政は前例主義に陥りやすいので、行政が深く街造りに関わるべきでない」と芸術家と市民主導による街造りを提唱した。

芸術家と市民との論議 今後、活発に繰り返し

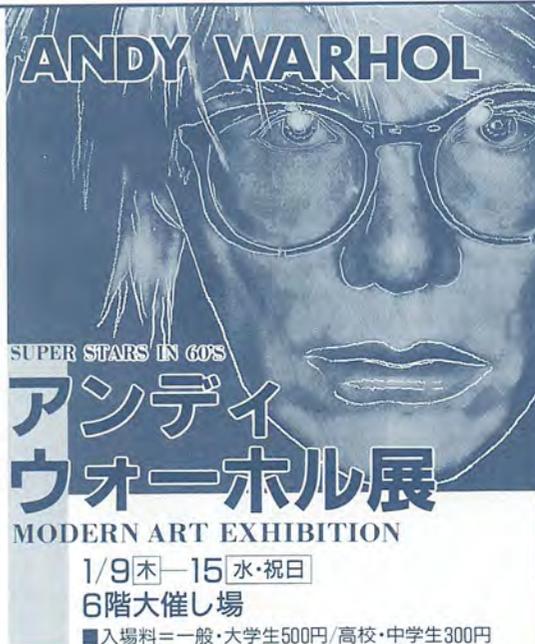
この後のパネル討論会は、森戸哲さん（地域総合研究所長）▽ふじたあさやさん（演劇脚本・演出家）▽大谷列子さん（昭和音楽芸術学院校長）▽児玉由美子さん（環境造形作家）▽山下司さん（工学院大学教授）がパネリスト。それぞれの立場から街造りの理念などについて発言したが、市民生活との関わりについての問題提起は少なく「このシンポジウムをスタートにして、今後さらに多くの問題を論議」（司会の細川満・麻生市民館長）することを確認した。

※お断わり※ミニニュース・編集後記は休みます。

発行 財団法人 川崎市生涯学習振興事業団

〒215 川崎市麻生区万福寺一の二の二 新百合21ビル
電話（〇四四）九五二一五〇〇 FAX（〇四四）九五二一三五〇

編集人 田 中 園



ANDY WARHOL

SUPER STARS IN 60'S

**アンディ
ウォーホル展**

MODERN ART EXHIBITION

1/9木—15水・祝日
6階大催し場

■入場料=一般・大学生500円/高校・中学生300円

今に伝わる江戸の伝統工芸技くらべ。

職人 Part IV

◆1月3日(金)~7日(火)
◆6階大催し場

●最終日7日(火)は午後5時にて閉場。
主催/江戸の伝統工芸協同組合
■江戸木彫(横谷宗舟)
卓越技能賞・勲六等瑞宝賞
を受賞した本物の技を
ご紹介。



さいか屋川崎

〒210 川崎市川崎区小川町1番地
TEL. 044-211-3111

水道水が一番飲み慣れた水 だから 安全に健康的に...



料理やお茶、コーヒー、紅
茶、炊飯など用途は無限

「ミネバランス」はアルカ
ライオン水とアストリンゼ
ン水を同時につくる健康と
美容になくしてはならない生
成器です

弱酸性のアストリンゼン水
は美容に優れた働きがあり
ます

酸性になりがちな体をアル
カリオン水は弱アルカリ
性にして健康体にします

健康を考えるなら
ミネバランス
整水器は常識です

全自動アルカリイオン電子整水器
ミネバランス

水を科学するヘルシーマシン

標準小売価格 148,000円
(消費税・取付け工事費別)

AKAI 赤井電機株式会社

パンフレットを無料でお送りします
フリーダイヤル ◆月~土曜9-20時
0120-096-608

販売元
株 ヒューマンテックコーポレーション
〒215 川崎市麻生区万福寺1-8-7-306
TEL・FAX 044-954-4151